

県内の遺跡・遺物27

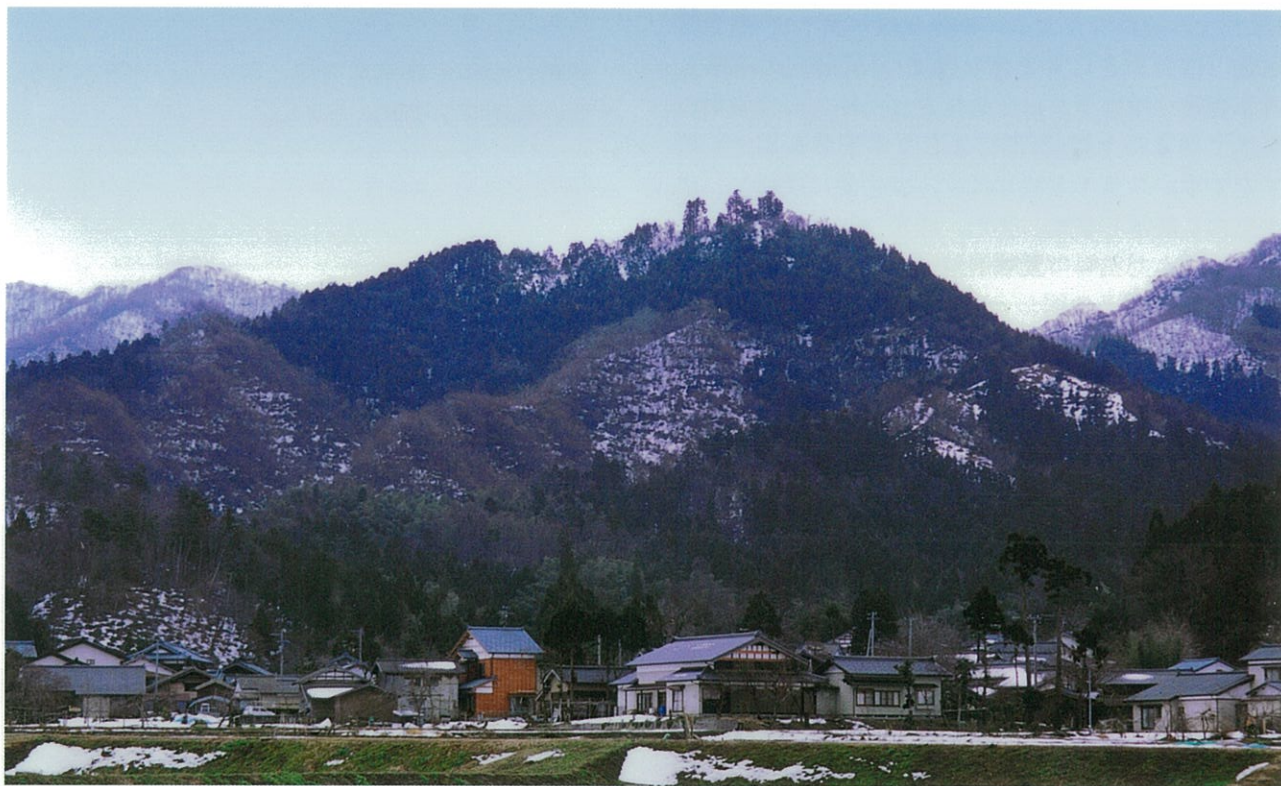
かな やま じょう あと  
**金山城跡** (平成6年国指定)

所在地：北蒲原郡加治川村大字金山ほか

著名な荘園である奥山荘は、現在の北蒲原郡北部を中心として、一部岩船郡南部にまたがる地域に所在した摂関家領でした。中世の東国荘園の景観を保存するため、旧荘内10箇所の遺構が国の史跡に指定されています。

金山城跡は、加治川村の東部を走る櫛形山脈のほぼ中央部に突出する願文山<sup>がんもんざん</sup>を本城とした一連の中世山城遺構の総称です。それらは、奥山荘の南端であった山麓の金山地区を中心に構築されており、まず、平安時代末期に奥山荘の開発領主であった城氏によって開始されたものと言われています。鎌倉時代以降は、地頭の三浦和田氏<sup>みうらわだ</sup>による開発経営がなされ、さらに中条氏の支族金山氏<sup>かなやま</sup>によって最終的に完成されたものとされています。特にその形状をよく保っている願文山城跡、城砦である高館跡<sup>たかだてあと</sup>と蝸牛山城跡<sup>かたつむりやまじょうあと</sup>、金山城主代々の居館跡と推定される館ノ内跡<sup>たてのうちにあと</sup>の4箇所が奥山荘城館遺跡の一つとして指定されました。

願文山（標高251m）の頂上は、削平された本曲輪があり、頂上平坦部を囲んだ土塁の一部も残存しています。下方1段目には、千人溜<sup>せんにんだまり</sup>と呼ばれる削平された本曲輪があり、以下中腹にかけてのべ20数段にも及ぶ棧敷状の腰曲輪<sup>こしぐるわ</sup>が設けられています。また、頂上に至る数本の尾根には大小の堀切<sup>ほりきり</sup>を備えています。



奥山荘城館跡「願文山城跡」 (平成12年1月撮影)

あ と が き

今年度の発掘調査は、30度を超える真夏日や雪の降り続く中でも調査した現場があり、例年以上に慌しかったように思います。その中で今年も数々の貴重な発見が得られました。2月には、中条で発掘調査報告会も開かれます。ぜひ、この機会に今年度の調査成果をご覧ください。

埋文にいがた No.29

発行 (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 〒956-0845 新津市金津93番地1  
 TEL (0250) 25-3981  
 FAX (0250) 25-3986  
 e-mail : maibun@coral.ocn.ne.jp

印刷 有限会社 双葉印刷